

## 「地震・防災セミナー」(平成15年11月21日：北海道開催)

### における参加者からの質問及びその回答

平成15年11月21日、北海道(帯広市)にて開催された「地震・防災セミナー」において、時間切れのため会場にて質問ができず、セミナー終了後に質問用紙にて提出された質問につきまして、以下のとおり解答が寄せられましたので掲載いたします。

(講師の専門外の質問やセミナーと関係ない質問等については掲載していませんのでご了承ください。)

#### 質問

平成15年十勝沖地震について、以前報道で「東側半分の震源域が残っている」とのものがありましたが、その後解消されたとの報道を見たような気がします、解消されたのでしょうか？

質問者：市町村防災担当職員

#### 回答

回答者：笠原 稔 北海道大学大学院理学研究科研究科教授

長期評価で想定した十勝沖地震の震源域は、1973年根室半島沖地震の震源域に接するように東側の端を想定しました。その根拠は、1952年の津波の波高分布・余震分布によっています。この当時の不十分なデータにより、その地震断層モデルには不確かさがあります。2003年の十勝沖地震については、すべてのデータが完全に得られておりますので、かなり明確な震源断層のモデルが得られました。地震時に滑った断層の広がり、想定した震源域の西側半分強でした。また、津波の波高分布も1952年とは、東側で大きく異なっていました。これらから、地震直後には、東側のすべり残りが指摘されたわけです。地震後にも、地震時の断層面上及びその周辺でのゆっくりしたすべりが進行していることが、GPSにより観測されています。地震後の3ヶ月で、マグニチュード7.8に相当するすべりが観測されています。この量は、本震の約10分の1と、今のところは大きくないのですが、変動が継続していることからさらに解消する方向に進展することは考えられます。

しかしながら、1973年根室半島沖地震に接する領域までには広がっていません。この2つの地震の隣り合う領域をどこで分けるべきかについての明確な根拠が解明されているわけではないので、今後の推移を確定的には予測できませんが、根室半島沖地震に接する東側の部分の挙動には注意を払っているところです。可能性としては、2003年十勝沖地震よりは小型の地震として解消されるか、1973年根室半島沖地震タイプの地震と連動して解消するか、です。後者の場合には、1973年根室半島沖地震より大きなものになる可能性があります。

## 質問

津波への対応について、地域での津波対策として広報車による広報をしていますが、津波警報発令時の海岸線への広報について、いかが思われますか？

質問者：市町村防災担当職員

## 回答

回答者：今村 文彦 東北大学大学院工学研究科教授

広報車は、情報伝達を確実に行うという点では有効であると思いますが、時間がかかることと、広報車自体も津波の危険を受ける可能性があるために、屋外無線や室内の個別無線の方が、津波に対してはよりよいと思います。